

## 「みえの現場・すこいやんかトーク（大台町）」の概要

11月27日（日）にグリーンプラザおおだいで、「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、地域の歴史、文化を活用し、まちづくり活動に取り組んでおられる2つの団体の関係者16名の方にお集まりいただき、参加者が取り組んでいる事業の内容や成果、行政に期待していることなどのお話をお伺いしました。

《参加団体》（順不同、敬称略）

- ・大台町ふるさと案内人の会
- ・宮川流域案内人の会



### 【参加者の発言】

参加者の皆さんから、以下のような意見をいただきました。

活動に参加して、一番良かったのは、このメンバーに出会えたこと。「人は宝」だと思っているので、いろんな人に出会えたことが一番良かった。

大台町と宮川村が合併して6年経過した。人口も千人近く減少して、これからも減っていく中で、よその地域から来てもらう（Ｉターン）ようなればと思っている。

地元にいると地域の特性など気付きにくい。「村をあげてこれを守っていく」とか「こういう行事にしていく」ということをもう一度掘り起こし、そういう部分を町外の人にも見てもらい、観光やＩターンにつなげればと思う。

郷土を知る、郷土を愛する、それが国を愛するということにつながって行くと思うので、郷土を知るという教育をもっと重点的に考えてもらいたい。地域のことは自分たちがやっていくという、そういう考え方でやっていければ、自治体は勿論、日本全体が活性化していくのではと思っている。

行政にあれをしてくれ、これをしてくれという時代は過ぎた。自分たちだけでやって、足りない部分を行政に補ってもらう。これはどうしても行政でなければできないという部分についてやって欲しい。

現在、NPOの認可は知事が行っているが、地域内で活躍しているNPO法人の認可は、その権限を市町長へおろせば良いのでは。



## 【知事の発言】

知事からは、以下のような発言がありました。

郷土教育、学力向上、地域に開かれた学校、キャリア教育は力を入れたいと思う。地域の皆さんと相談しながら進めていきたい。

現在、10年間の三重県のビジョンを策定しており、「アクティブシチズン」をキーワードの一つとしている。これは、誰かに何かを「やってくれ」ばかり言うのではなく、自分の地域のため、自分の大切な人のため、大切な家族のため、あるいは自分の夢のため、そういうもののために自立して行動していく県民という意味で、皆さんの取り組みは、その典型的事例、先進的事例と感じた。

いろんなことをする過程で、一人ひとりが参画したり、みんなで力を合わせたり、成果が出たりしたら、きっと幸せを感じることができるのではないかと。物やお金があるから幸せではなく、みんなで一緒にやるから幸せだと、そういうものを通じて、三重県は幸福実感日本一の県にしたいと考えている。